

第6学年「てつがく」学習指導案

授業者 増田 伸江

2月21日（木） 1階多目的室 9：00～9：40

- 1 題材名 みんなで考えよう「思い出とは？」
- 2 考える価値内容 世界（幸福）・自己（自尊感情）・他者（共生）
- 3 題材について

（1）小学校最後の「てつがく」で4年間の学びを振り返る

3年生から始まった「てつがく」の授業を子どもたちは4年間体験してきた。サークルという形態は、1年生の時の「えらぶ」や「みがく」の時間にも体験しており、子どもたちにとって居心地のよい安心できる形態である。学年が上がるにつれて、朝のサークルは減ってきたが、子どもたちはサークルという形態を好み、「てつがく」の時間はグループ討論やコの字型で話し合いなども行っていたが、最後はサークルで他者の顔を見ながら、語り合う形態を選ぶ。＜2内容－(1)ア＞

このように4年間の「てつがく」の時間とその前の2年間の「みがく」の時間という長い時間をかけて、「てつがく」する心と体ができてきたように感じられる。それを子ども自身にも自覚してもらい、卒業が目前のこの時期に、小学校6年間の学びで「てつがく」の占める大きさを確認させたい。そこで、改めて「てつがく」を通して得たものを子どもたちに問うことで、自覚を促すことにした。

（2）自分を見つめ直す

子どもたちは、家庭での会話やテレビや新聞等から得た一般論を自分の考えであるかのような錯覚を覚え、サークルで堂々と発言していることがある。親やメディアから得た情報に対して何の疑いももたずに鵜呑みにしているのである。教師の役割として「本当にそう思うのですか。」「誰から聞いたのかしら」と問い返し、自分の意見が本当に自分の心から出たものであるのかどうかを見つめ直させたい。社会や周りの人々から影響を受けながら自分の考えはできていくものではあるが、その過程で自分なりに根拠をもって納得し、自分のからだの中に入り込んだ考えなのか見つめ直させたいと考える。＜2内容－(2)イ＞

（3）他者の意見に立ち止まり、自分を振り返る

自分が当たり前だと考えていたことが、他者は違う考え方をしていたということに気づいた時、それを子どもたちはどのように受け止めることができるのだろうか。直ぐに他者の意見に流されてしまう子、自分の意見に拘り他者を受け入れ難い子、他者の意見に触発され自己の考えを変化・深化させることができる子など様々であろう。サークル対話をしながら、友だちの良さに気づき、自分の特徴に気づき、その上で他者を受け入れ自己を変容させることができる子どもへと成長していくことを願う。＜2内容－(2)エ＞

4 学習指導計画（7時間目／全11時間）

- ・3学期のテーマを話し合いで決める … 1時間
- ・テーマから小さな問いをいくつか立て、様々な形態で対話する … 本時6／8時間
- ・テーマのまとめをする … 2時間

5 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ①テーマに対して疑問や問いを持ち、批判的・論理的・多面的に問い続ける。
- ②自分の考えを発信し、他者の思いも受けとめ、往還的に考えを再構築しようとする。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 本時の問いを確認する。	・本時の問いを意識するように、司会の子どもに前時からのつながりを説明させる。
2 対話をする	・他者の意見を傾聴し、自分の考えとつなげて考え、共感したり、反論したり、考え直したりする時間を大事にする。
3 本時のふり返り	・必要に応じ、教師から言葉の意味や発言の根拠を問うことをする。
	・個々に本時をふり返り、てつがく帳に自分の思いを書かせる。